

□主な内容

【地域内や観光地における電動小型低速車の活用に向けた実証実験の企画募集中！】

平成 30 年度に地域内や観光地における電動小型低速車の活用に向けた実証実験の実施を希望している地域から企画を募集しています。〔締切:10 月 17 日〕

<http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/bosyuu.html>

【第 7 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(金沢)の参加者募集中！】

10 月 11 日(水)～13(金)までの 3 日間、金沢市において研修会を実施します。意欲のある方々の参加を期待しています。〔締切:9 月 8 日〕

<http://www.estfukyu.jp/training2017.html>

【第 35 回 EST 創発セミナーinはだの〔関東〕の参加者募集中！】

10 月 31 日(火)に秦野市で第 35 回 EST 創発セミナー〔関東〕を開催します。皆様からのご参加をお待ちしています。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu51.html>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 133 回)

●「EV シフトは本物か？」

【東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻 教授 吉田 好邦】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 133 回)

●「『コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり』を目指して」

【高松市市民政策局コンパクト・エコシティ推進部交通政策課】

3. ニュース／トピック

●地域内や観光地における電動小型低速車の活用に向けた実証実験の企画募集について【エコモ財団】

●中部地方における運輸の動きについて【中部運輸局】

●地域住民発！安佐動物公園でイベントを行いました【中国運輸局】

●「四国まるごと公共交通利用促進キャンペーン 2017」について【四国運輸局】

●デマンド交通実証実験について【富士見市】

●BICYCLE CITY EXPO 2017 開催について【BICYCLE CITY EXPO 2017 実行委員会】

- 物流と店舗の省エネルギー・CO2 排出削減に向けた検討の開始について【株式会社セブン-イレブン・ジャパン】
- ガソリン・ディーゼル車の販売終了を含む二酸化窒素汚染対策について【イギリス環境・食糧・農村地域省】
- 徒歩・自転車の優先措置は渋滞を緩和すると事例集で報告【FLOW プロジェクト】

4. イベント情報

- 第 7 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(金沢)【2017/10/11-13】
- 第 35 回 EST 創発セミナーinはだの〔関東〕【2017/10/31】
- 宇都宮の「LRT早期着工を目指す市民大会」【2017/9/2】
- 第 25 回地球環境シンポジウム【2017/9/6-8】
- 緊急企画!!「トークバトル 鉄路の存在意義、そして存続方策」【2017/9/17】
- 第 17 回 スルッと KANSAI バスマつり【2017/9/17】
- 公共交通シンポジウム「まちの快適空間づくりから考える公共交通」【2017/9/22】
- 京都スマートシティエキスポ 2017【2017/9/28,29】
- くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017【2017/10/28,29】
- 第 24 回 ITS 世界会議モントリオール 2017【2017/10/29-11/2】
- 第 15 回 ITS シンポジウム 2017【2017/12/7,8】
- エコプロダクツ 2017【2017/12/7-12/9】
- 第 13 回全国路面電車サミット【2018/1/13,14】

5. その他

- EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 133 回)

●「EV シフトは本物か？」

【東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻 教授 吉田 好邦】

トランプ大統領が米国の離脱を表明したものの、パリ協定は途上国を含む世界全体で温室効果ガスを削減しようとする機運を生んだ点で、これまでの地球温暖化対策の枠組みにはない成果を生み出そうとしています。パリ協定によって低炭素化の投資リスクが少なくなり、将来の低炭素化ビジネスの利益を先取りしようとする動きが活発にみられます。イギリスやフランスが 2040 年以降のガソリン車、ディーゼル車の販売を禁止する方針を打ち出しているだけでなく、業界レベルでもボルボは 2019 年以降の販売車種を電動車(EV またはハイブリッド)とすることを発表しています。このような EV シフトは、正極材やセパレータなどの電池の部材を供給する企業に波及をもたらし、素材産業の生産の新規投資が盛んになされています。

そもそも削減の限界費用の安い温室効果ガス削減対策から順番に採用するという原則からいえば、発電の天然ガスシフト、建物の断熱化、ポンプのインバーター化などの他の対策に比べて、EV の導入は比較的高価で、経済合理性からは優先されるものではありません。それにもかかわらず、EV シフトが注目されているのは、そのマーケットが大きいからだけでなく、自動車がエネルギー消費を象徴する財で、規制や補助金などで政府の関与が大きい産業であることも一因と思われる。

自動車部門の温暖化対策は、従来から政府の規制や政策に作り手側が対応し、消費者の購買につながるという上流主導の印象があります。わが国の近年の燃費改善が、エコカー減税による消費選好の誘導よりも、トップランナー燃費規制による作り手側の対応が効いていることからいえることです。特にわが国では、消費者にとっては EV シフトに余り実感が無いというのが正直なところではないでしょうか。消費者にとって現在あるオプションからクルマを選ぶなら EV はまだ高価ですし、またわが国では福島原発の事故の影響でエネルギー需給が逼迫し、温暖化問題への関心が小さくなったことも背景にあるでしょう。

EV はこれまで何度もブームとよばれる普及のきっかけがありましたが、いずれも大規模普及には至りませんでした。ただ民間事業者の低炭素投資が活発な今回は、本物の感じがします。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 133 回)

●「『コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり』を目指して」

【高松市市民政策局コンパクト・エコシティ推進部交通政策課】

高松市では、モータリゼーションの進展と相まった道路網の整備により、居住や都市機能の「拡散化」が進み、車への依存が高まる中、人口減少、少子・超高齢社会への対応として、拡散型から集約型のまちづくりへ転換し、集約したまちを公共交通で繋ぐ、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めており、取組の柱として、既存の交通基盤を有効に活用し、快適で利用しやすい公共交通体系の構築を目指しています。

地方都市における鉄道やバスなどの「公共交通」は、不採算路線を中心に、廃線や路線の縮小を余儀なくされる状況にあり、公共が公共交通ネットワークを総合的にプロデュースするという視点が欠けていました。そこで、市域における公共交通の在り方や、実施に向けた施策を具現化するため、交通事業者などが一堂に会する「総合都市交通計画推進協議会」を設置し、意見集約・合意形成を図りながら、「公共交通の利用を促進・強化」と、「持続可能な公共交通ネットワークの再構築」に取り組んでいます。

「公共交通の利用促進」に向けて、全国に先駆け「公共交通利用促進条例」を制定し、市民・事業者・交通事業者・市のそれぞれに責務を課し、その理念を踏まえた施策として、交通事業者との連携により地域交通系ICカードを活用した施策(電車・バス乗継割引、高齢者運賃半額支援事業)を展開し、減少傾向にあった鉄道の利用が大幅に増加しています。

また、「持続可能な公共交通ネットワークの再構築」では、本市が持つ強みである「鉄道網」を基軸に、鉄道と幹線道路の交差部に、新たな交通結節拠点として2つの鉄道新駅を整備する。これは、中心部に一極集中する路線バスを再編するものであり、市全域を対象とした公共交通ネットワークの拡大により、比較的安価に都市経営を実現するものと考えています。

この様な考え方には、公共交通ネットワークを社会的インフラと位置づけ、必要なイニシャルを行政が積極的に支援する一方、自動車交通を主眼に置いた道路整備から、既存ストック(鉄道網やこれまでに整備された幹線道路)を最大限に有効活用した道路計画に見直すなど、インフラ整備に要する経費の削減と、一体的に評価・推進する仕組みの導入を課題としています。

高松市公共交通ネットワークイメージ図



3. ニュース／トピック

●地域内や観光地における電動小型低速車の活用に向けた実証実験の企画募集について【エコモ財団】

エコモ財団は、地域内や観光地における電動小型低速車の活用に向けた実証実験を検討するため、平成 30 年度に実証実験の実施を希望している地域から企画を募集しています。企画が選定された場合、今年度は、本分野に詳しい有識者やエコモ財団等による支援のもと、実証実験の実施に向けた検討を行い、実施計画を策定します。

<http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/bosyuu.html>

●中部地方における運輸の動きについて【中部運輸局】

中部運輸局では公共交通の根幹である「地域鉄道」に着目し、網計画の策定が地域公共交通の利用に影響を与えているかどうかを分析しました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/kousei20170727.pdf>

●地域住民発！安佐動物公園でイベントを行いました【中国運輸局】

公共交通利用促進および渋滞緩和へ向けた取組の一環として、広島市安佐動物公園でバスの展示等のイベントを行いました。このイベントはあさひが丘団地の住民が、生活の足であるバス路線を守るために自らが主体となって進めているもので、昨年度から自治会・公共交通事業者等が一体となって活動しています。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/topics/170728kousei.pdf>

●「四国まるごと公共交通利用促進キャンペーン 2017」について【四国運輸局】

四国 4 県・四国運輸局・公共交通事業者・NPO等で構成する四国公共交通利用促進協議会は、バスや鉄道をはじめとする公共交通機関を“もっと気軽に、もっと身近に”感じてもらい、より多くの方に利用してもらうことを目的に、9 月 9 日(土)から 10 月 15 日(日)までの 37 日間、「四国まるごと公共交通利用促進キャンペーン 2017」を実施します。

<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/newsrelease/2017/riyousokushin2017.pdf>

●デマンド交通実証実験について【富士見市】

富士見市は既存のタクシーを活用して、事前に利用登録した方が利用したい時間・乗車場所、行き先を予約して市内を移動する公共交通システムを実験的に運行いたします。

<http://www.city.fujimi.saitama.jp/20kurashi/05douro/2017-0526-1831-156.html>

●BICYCLE CITY EXPO 2017 開催について【BICYCLE CITY EXPO 2017 実行委員会】
BICYCLE CITY EXPO 2017 実行委員会(住友不動産ベルサール株式会社、株式会社ライジング出版)は「自転車を活用したまちづくりの推進」をコンセプトにした日本初・最大規模の展示会「BICYCLE CITY EXPO 2017」(後援:自転車活用推進本部、国土交通省、新宿区他)を開催します。

<https://www.bellesalle.co.jp/eventinfo/bicyclecityexpo2017/>

●物流と店舗の省エネルギー・CO2 排出削減に向けた検討の開始について【株式会社セブン-イレブン・ジャパン】

株式会社セブン-イレブン・ジャパンとトヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)は、物流および店舗における省エネルギー・CO2 排出削減に向けた検討に関する基本合意書を締結しました。両社は、トヨタが新たに開発する水素を活用した車両や発電機等の導入により、将来の低炭素社会・水素社会の実現に貢献することを目指します

http://www.sej.co.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/020/360/08093.pdf

●ガソリン・ディーゼル車の販売終了を含む二酸化窒素汚染対策について【イギリス環境・食糧・農村地域省】

イギリス環境・食糧・農村地域省(DEFRA)と運輸省(DfT)は、自動車の排ガスによる道路沿いの二酸化窒素(NO2)汚染対策をまとめた新たな計画を発表しました。計画では、2040年までにディーゼルとガソリンを用いる従来型の乗用車とバンの新車販売を終了する方針としています。

<https://www.gov.uk/government/news/plan-for-roadside-no2-concentrations-published>

●徒歩・自転車の優先措置は渋滞を緩和すると事例集で報告【FLOW プロジェクト】

FLOW プロジェクトは、交通手段としての徒歩と自転車利用が渋滞に及ぼす影響を調査し、その結果を15項目の事例集としてまとめました。交通渋滞は大気汚染や輸送効率低下をもたらしますが、その解決策となりうる徒歩や自転車を推進する手段(例えば車両レーンを減らして歩行者や自転車用の道路に転換する等)が徒歩・自転車の利用条件を改善するだけでなく、渋滞緩和にも役立つことが判明しました。

<https://wupperinst.org/a/wi/a/s/ad/3993/>

4. イベント情報

●第7回地域の交通環境対策推進者養成研修会(金沢)

日時:2017年10月11日(水)~13日(金)

場所:ITビジネスプラザ武蔵6階「交流室1」

主催:EST普及推進委員会、エコモ財団、北陸信越運輸局

<http://www.estfukyu.jp/training2017.html>

●第35回EST創発セミナーinはだの〔関東〕

日時:2017年10月31日(火)13:15~16:50

場所:タウンニュースホール

主催:秦野市、関東運輸局、EST普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu51.html>

●宇都宮の「LRT早期着工を目指す市民大会」

日時:2017年9月2日(土)14:30~16:00

場所:栃木県総合文化センターメインホール

主催:LRTの早期着工を目指す市民大会実行委員会

<https://www.t-lrt.com/lrt20170808-01/>

●第25回地球環境シンポジウム

日時:2017年9月6日(水)~9月8日(金)

場所:神戸大学工学部LR棟

主催:土木学会

<http://committees.jsce.or.jp/global/node/9>

●緊急企画!!「トークバトル 鉄路の存在意義、そして存続方策」

日時:2017年9月17日(日)14:00~17:00

場所:名古屋大学東山キャンパスES総合館1階ESホール

主催:名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/railway.html>

●第17回スルッとKANSAIバスまつり

日時:2017年9月17日(日)10:00~16:00

場所:神戸市兵庫区御崎公園ノエビアスタジアム神戸

主催:スルッとKANSAI協議会

<http://www.surutto.com/newsrelease/release/s170818.pdf>

●公共交通シンポジウム「まちの快適空間づくりから考える公共交通」

日時:2017年9月22日(金)13:00~16:20

場所:横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール

主催:関東運輸局

https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1708/0822/pk_p170822.pdf

●京都スマートシティエキスポ 2017

日時:2017年9月28日(木)10:00~17:10

2017年9月29日(金)10:00~17:00

場所:けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)ほか

主催:京都スマートシティエキスポ運営協議会

<https://expo.smartcity.kyoto/>

●くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017

日時:2017年10月28日(土)、29日(日)

場所:東洋大学白山キャンパス

主催:くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会

<http://zenkokuforum.jimdo.com/>

●第24回 ITS 世界会議モントリオール 2017

日時:2017年10月29日(日)~11月2日(木)

場所:Le Palais des congrès de Montreal

主催:ITS America / ITS Canada

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/montreal-2017/

●第15回 ITS シンポジウム 2017

日時:2017年12月7日(木)~8日(金)

場所:九州大学 伊都キャンパス 椎木講堂

主催:特定非営利活動法人 ITS Japan、九州大学

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/15th2017/

●エコプロダクツ 2017

日時:(1日目)2017年12月7日(木)10:00~18:00

(2日目)2017年12月8日(金)10:00~18:00

(3日目)2017年12月9日(土)10:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2016/outline/000511.html>

●第13回全国路面電車サミット

日時:2018年1月13日(土)~14日(日)

場所:未定

主催:NPO法人 公共の交通ラクダ

共催:全国路面軌道連絡協議会・全国路面電車愛好支援団体協議会

5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。
http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
<https://twitter.com/officeEST>
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
配信申込はこちらから
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html
- 記事募集中！
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>